

1. 学校経営について

学校教育目標の理解と実践については、保護者・職員ともに高い割合で肯定的に捉えている。しかし、生徒の回答を見ると「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計が45%と高い割合を示しており、生徒への目標浸透に課題があると考えられる。学校教育目標は生徒の目指す姿なので、日頃から意識させていきたい。

学校経営全体に対して、保護者からは肯定的な回答が多かったが、学校と保護者との連携について十分でないという回答もあるので、更に連携の強化をしていきたい。また、先生に気軽に相談できないと回答している生徒が多いので、相談しやすい環境作りをしていきたい。

2. 小中一貫教育について

小中一貫教育については、保護者・教職員ともに理解が進んできている。生徒が中学校生活をスムーズにスタートできるよう、今後も中学校区で連携して小中一貫教育を推進していく。

3. 生徒の学校生活について

生徒自身が学校生活を「楽しく充実している」と感じている割合が、保護者よりも高い。約7割の生徒が「楽しく充実している」と感じているが、「あまりそう思わない」という生徒が3割ほどいるので、生徒がどういうところに楽しさや充実感を持っているのか、分析していく必要がある。

4. 教職員と生徒の関係について

生徒の相談しやすさについては、「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計が45%と高く、相談しやすい雰囲気づくりが課題と考えられる。教職員側は親身になって相談に乗っていると感じている割合が高いことから、教職員と生徒との間に認識のずれがある。生徒の目線までさがり、傾聴する姿勢を大切にしたい。

5. 授業について

「先生は一人一人の生徒を大切に授業をしているか」という質問に対し、生徒の肯定的な回答が昨年度より低くなっている。教職員は「わかりやすい授業の工夫をしている」と肯定的に捉えているので、認識にずれがみられる。

「授業内容を十分に理解できているか」という質問に対して、肯定的な生徒と否定的な生徒が約半々である。授業内容が十分に理解できていないことが、生徒一人一人を大切にしていないと感じている結果に繋がっていると考えられる。研修をして、生徒が「わかった」「学ぶことが楽しい」と、実感できる授業づくりをしていきたい。

6. 家庭学習について

家庭学習（塾を含む）については、生徒・保護者ともに、「そう思う」「大体そう思う」と回答しているが、通塾率が高いことも、結果に影響している可能性がある。教職員は、家庭学習に積極的に取り組むよう指導している。日頃の授業の様子から、学習意欲が高い生徒が多いことがわかるが、今後、主体的に学習しているか分析していきたい。

7. いじめ・差別について

「いじめや差別のない学校生活が送れているか」という質問に対して、生徒も保護者も「そう思う」「大体そう思う」と回答している人が多い。しかし、「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答している生徒もいる。道徳の授業や人権教育を大切にして、引き続き、学校全体で「いじめの根絶」に取り組んでいく。

8. 地域活動への参加について

地域活動への参加については、生徒自身が参加していると回答している割合が最も高く、次いで教職員、保護者の順となっている。数値から見ると、地域活動への参加はまだ十分とは言えない。部活動に加入している生徒や、学校外のクラブ活動や習い事等で、時間をとることが難しい可能性がある。

9. 全体について

これらのアンケート結果から、保護者が学校の教育活動に対して理解をし、支えてくれていることがわかる。生徒達も、学校生活を一生懸命に送っていることが読み取れる結果だった。教職員が熱心に教育活動に取り組んでいるが、生徒との認識にずれが見られるところもあったので、教職員からの一方通行にならないよう、生徒と共によりよい白山中学校を目指していきたい。